

「まなざし」を鍵概念とした社会科授業の研究

—岐阜県白川郷を中心にして—

須本 良夫 (Yoshio Sumoto)

1 はじめに

日本政府は、観光立国・日本を掲げ、2008年10月に国土交通省の外局として観光庁を設立した。観光庁は各省庁のもつ観光産業の関連部署を一括にすることで、外国人観光客を平成22年までに年間1千万人に増やすことなどを目標に据え、観光を裾野の広い産業としてこれからの日本の成長産業としようとしていた。

しかし、平成23年3月11日に「東北地方太平洋沖地震」が発生した。東北地方の太平洋沿岸部を中心として各地に大規模な津波が押し寄せ、その被害規模は「阪神・淡路大震災」を上回る未曾有のものとなった。津波被害は福島原子力発電所をも襲い、複合的要因を伴い避難区域とされる地域が設定されるなどの影響が生じた。この時から、東北3県は被災→復興の道をたどり始めた。

復興への道は険しく、国土交通省観光白書(平成23年版)によれば、震災以降3～4月の宿泊予約が東北地方で約61%、関東地方で約48%、全国では約36%の宿泊予約がキャンセルされた。当然のことながら、平成23年4月の訪日外国人旅行者数は前年同月比で62.5%減の29万6千人であり、単月の減少幅としては過去最大の減少幅となっている。また、震災だけでなく原発被災では、正しい情報は何か分からなくなり、多くの観光客が東北や日本から遠ざかることになった。

そうした中、平成23年度から小学校学習指導要領が全面実施となった。震災が訪れることなど想定されていないまま、学習指導要領解説(4・5年生)の中には、新たに観光客、観光などの産業という文言が入り、観光という視点からの学習が盛り込まれることになった。これまでの学習でも取り扱うことが出来た内容ではある。しかし、県の特色や、国際理解といった切り口で観光地或いはそれを資源として取り扱われることはすくなかった。しかし、指導要領解説にも取り上げられ、社会科の中での観光資源

の取り扱いの見直しや、観光が大きな産業であるという見直しがすすめられている。平成20年版の指導要領解説には、観光については次のように記されている。

地形や気候に合わせた住まいや学校生活などの日常生活の様子、地形や気候の特色を生かした野菜や果物、花卉の栽培、酪農、観光などの産業を取り上げることが考えられる。

第3・4学年 内容(1)イ

「県(都、道、府)内の特色ある地域」としては、伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域のほか、例えば、溪谷や森林、高原や湿原、河川や海辺などの豊かな自然を守りながら、あるいは、歴史ある建造物や街並み、祭りなどの地域の伝統や文化を受け継ぎ保護・活用しながら、地域の人々が互いに協力して、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域が考えられる。

第3・4学年 内容(6)ウ

外国や他の県から観光客を招き入れていること、農業や工業において原材料の仕入や生産物の出荷などの面で国内の他地域や外国と結び付いていることなどを取り上げて調べることが考えられる。

第5学年 内容(6)エ

しかし、学習者である子どもの多くは、経験的に観光者になることはあっても、日常では観光資源を守り、それを意識化して観光客の誘致や保護をするということは少ない(地域の実態による)。そもそも観光というものを意識していることも少ない。そのため、観光を学習に取り入れるに際して、子ども達へ観光そのものの有り様と観光者と観光資源、地元保全者という観光を取り巻く要素を意識化させなければ産業やつながりなどは抽象的なものとなってしまいかねない。

そこで、観光資源に内在するアフォーダンスを考え、観光者のまなざしを取り入れた観光社会学の成果の成果を援用し、本研究では「まなざし」を鍵概念として観光の内容を再吟味試写会か授業に取り入れることを目的とする。

2 観光のみなおし

(1) 観光の定義

観光という言葉は、非常に幅広く使われている。観光学によれば、もともと「観光」の語源は中国の儒教の古典「易経」に記された「観国之光」＝「地域のすぐれたものを観みる／観みせること」ということばが観光の語源とされている。現在、観光学で言われるいくつかの定義を並べてみる。

「自由時間における日常生活圏外への移動をともなった生活の変化に対する欲求から生ずる一連の行動」
(観光学辞典)

「観光は、国際平和と国民生活の安定を象徴するものであって、その持続的な発展は、恒久の平和と国際社会の相互理解の増進を念願し、健康で文化的な生活を享受しようとする我らの理想とするところである。また、観光は、地域経済の活性化、雇用の機会の増大等国民経済のあらゆる領域にわたりその発展に寄与するとともに、健康の増進、潤いのある豊かな生活環境の創造等を通じて国民生活の安定向上に貢献するものであることに加え、国際相互理解を増進するものである。」

(観光立国推進基本法)

「その土地を異郷とするひとの旅行と滞在から生じてくる関係性と現象の総体である。ただし、行った先で長期滞在をしないこと、かつ収入に結びつく経済活動をしないこと」

(ヴァルター・フンチカー)

観光の定義は観光に携わる人や場所で語られるものが多い中、フンチカーは観光に関して異郷と旅する人の関係性に着目している。後に述べる観光のまなざし(図2)は、このフンチカーのいう関係性や場所からなる総体に着目するものである。その上で、さまざまな観光の定義等も合わせ、本研究では観光を次のように捉えることにする。

観光とは、市民社会の定住者が、楽しみのための一時的に離郷し、異郷の風物を観に行く短期的な滞在を行なう現象に関わるものの総体である。

(2) 観光の分類

①目的観光

A：マス・ツーリズム

世界各国で、社会の進行が進展する中で行なわれる、大衆観光の象徴的な観光形態である。先進国においては、グローバル化の進展に反して経済が縮小する中で、あまり見られない観光の形態だが、なくなっているわけではない。日本では、近年、観光バスによる形態が増加した。その多くはメディアによって紹介された価値を求め、観光地を目指しているものが多い。マス・ツーリズムの特徴は、経済的に雇用も生まれるが、交通渋滞や様々な治安や景観・環境の悪化が進み、荒れた観光地が目立つことにある。

B：サステイナブル・ツーリズム

地元の人にとっては、観光地の営みは現実である。観光者は観光という行為を行なう以上、地元がなければ観光が成り立たない。現実でありながら、地元の人には観光空間の演技者ともいえる。ここに観光の齟齬が生じる。この齟齬を埋めるため、地元民が努力することで、観光者はその一時を自由に振る舞える。しかし、観光者が現実に戻っていった空間に取り残された地元民は、やはり環境の乱れなどに対しての問題を感じてしまうことになる。その解決には、様々な立場からの観光へのまなざしを理解し、努力を進めなければならない。そうした取り組みで近年話題となっているものが、サステイナブル・ツーリズムである。観光空間の資源を観光者のまなざしから守らねば、自らの生活さえ支えられなくなり経済活動が維持できなくなることへの警鐘である。

C：限定領域観光

観光者からみれば、観光とは日常から離れて生活をおくる開放された時間を目指していると言える。そのため、観光は非日常とされている。しかし、観光も主たる目的が日常の延長の場合がある。ショッピングツアーやディズニーリゾートへのツアーである。一連の商業主義的消費の濃い要素は、短期的非日常性は与えることができるが、その場にある文脈の記号的読解を与えにくい。原則的には目的を持って観光空間へ出かけることが観光資源の消費につながる場合がほとんどといえる。

②無目的観光

D：散歩型観光

観光が記号の消費をするものだという事はすでに述べた。それはメディアにも大きく左右される。テレビ番組の地域紹介の形態は小さな観光の分類といえる。しかし、あくまで偶然や突然、無目的の観光を演出しているものもある。

近年、若者の志向としてこうした人との出会いを求め観光資源そのものを求めない旅を行なう向きもある。さらに誰も気付かない道端のものさえ資源として、ブログなどで記号が消費されるように紹介されている。今後は観光の大きな位置を占める可能性もある。

3 観光のまなざしとは

(1) フーコーとアリーの唱えた「まなざし」

「まなざし」を活用して、観光を見つめ直そうとした社会学者がJ・アリーである。アリーは観光現象のあり方をM・フーコーの「まなざし」の概念を援用しようと試みであった。

そもそもフーコーの「まなざし」とは、彼の著作である『臨床医学の誕生』で用いられた概念である。フーコーはその中で、近代医学の「まなざし」は、個々の観察者のまなざしではなく制度によって支えられ正統化された臨床医師のまなざしであると述べた。普遍的に見える医師のまなざしも、時代の中で制約されている政治や経済という何らかの脈絡の中からつむぎ出されていることを明らかにしようとした。フーコーの思想において、知の役割は「絶対的な真理」を証明することではなく、それがどのようにして発生し、展開してきたかを調べることにあった。例えば『臨床医学の誕生』で述べられる医師の「まなざし」も科学的な客観性をもった者が行なうのだから、患者は重順に従うことが当たり前になっているとした。このようにフーコーは、「知は力なり」という観点から、近代社会における「科学的客観性」が「権力」の根拠(支配の正統性)となるメカニズムについて論じた。この考えを安村克己は、図1のように表した。¹

アリーは、フーコーのこの「まなざし」概念を援用し、「観光」は観光地に対する人々の「まなざし」によって成立する現象であると述べた。アリーがフーコーに着目をしたのも、70年代以降の生産者構造から消費者構造へと変化した社会の

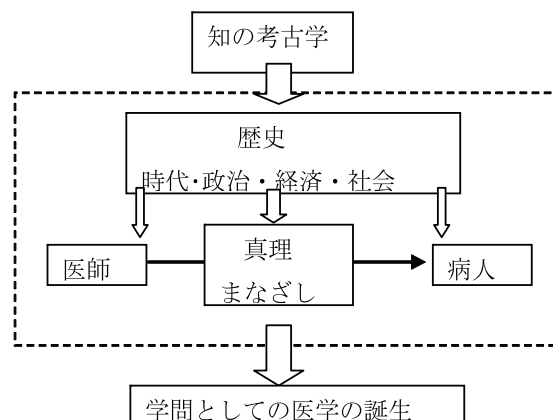


図1 フーコーの考えたまなざしの構造

パラダイム変化を実感したためと考えられる。70年代以降先進諸国では大量消費的なものから個人的な消費パターンを重視し、サービス産業重視へ移行した。アリーは「観光のまなざし」の中で観光を取り上げながら、場所や階級が混沌となる状況を浮かび上がらせた。観光者が読み取る記号を日常/非日常で比較し、近代社会における労働と余暇に関して、記号から生まれる表象を読み取り、明らかにしていこうとした。その点においては、フーコーの唱えるまなざしと同様である。これはフーコーのいう知の考古学に当たる。

一方、観光の要素ともいえる政策学、経営学、地理学、地域学、民俗学や社会学など社会科学のアプローチと異なり、幅広く旅行者からの「まなざし」を通すことで観光の概念に演繹的に迫ろうとしたため、はっきりとその定義は絞りきれないともいえる。

(2) 観光のまなざしの再考

檜山平はアリーが十分に観光のまなざしを定義しきれていない部分を補うために、「観光のまなざし」の定式化として、次の5点を唱えている²。

- ①「近代資本主義のまなざし」によって観光地は商品として意味付けされ、価値を持つ。それは時代が下るにつれて、特に「記号消費」(商品が記号として消費されること)として展開されるという点が重要である。
- ②「近代国家のまなざし」によって、一定の国家戦略の下で、国内の観光地は「記号」として意味付けされ、価値を与えられる。

- ③「近代科学のまなざし」によって、科学的客観性の権威と科学的真理の唯一性(科学的命題は常に仮説に過ぎないが反証されるまでは一般の社会に対しては事実上唯一の真理として機能する)によって、観光地は「記号」として意味付けされ、価値を持つ。
- ④以上の「近代資本主義のまなざし」「近代国家のまなざし」「近代科学のまなざし」は、その他のまなざしと共に、互いに「整合的」に結び付いて「記号の体系」となり、その社会における「規範」として機能する「観光のまなざし」を形成する。
- ⑤観光のまなざしは、記号・言語の窓意的・差異的な体系であり、言語で捉えられる以前の自然・人工物とは非連続である。記号活動・言語活動は、ある地域の自然や人工物が本来持っている観光資源としての無限の可能性とは相対的に独立したところで、自律的に作動するシステムである。

この5点の中で大切なことは、観光のまなざしは記号の消費である以上、観光地を見るという行為自体、観光資源(観光地)の実際の姿を捉えているかどうか不明であるということである。観光者は何らかの記号を持ち込み、観光資源を観ている。

観光資源は閉ざされた空間にあるからこそ、旅行者は日常から離れ、異なる非日常への移行が可能となる。そこでは、旅行者や外界の者の、こうあってほしい、こうあるはずだというまなざしが向けられる。だからこそ、非日常を求めて観光に訪れることになる。そのため、檜山が言うように記号の消費という、そこだけの価値が成立する。一方で閉ざされた空間では、日常の生活が繰り返されつつも、外界からのこうあってほしいという期待に応えようとする。そうなると、観光空間とは日常と非日常が混在する場であり、そこで生じる価値には齟齬が生じることもあり得る。

観光者が観光に赴く際にはポスターや「世界遺産」とか「日本三景」「三大祭り」など多様な情報が入り込み、その情報のすりあわせで訪問地を決定している。そして、個人の思いとは全くちがった序列化に向かって強制されてしまう。いつしかそれは規範となり、価値付けられた観光地を観る事になってしまう。よって、勝手に

作り上げたイメージをもとにしておきながら、一番がっかりした観光地はなどとさらに評価をつけていく。つまり、私たちは観光資源を見つ、ある記号を消費し、その記号自体が自己の規範の中で価値づけられ、地元の人の思いなどを見過ごしてしまうことがある。そのような場合、観光空間を離れてしまうと、自分の評価とは別に周囲の言う記号がそのまま観光地の思い出と心象化されることもあり得る。

社会科教育において解明していきたいことは、価値付けられた個々人の観光資源への思いではなく、観光のまなざしを通してみる社会的意味(図2)である。それは、観光者、業者、地元、国や県と観光資源をみる学習者とのかわりにおけるまなざしの作用の解明である。

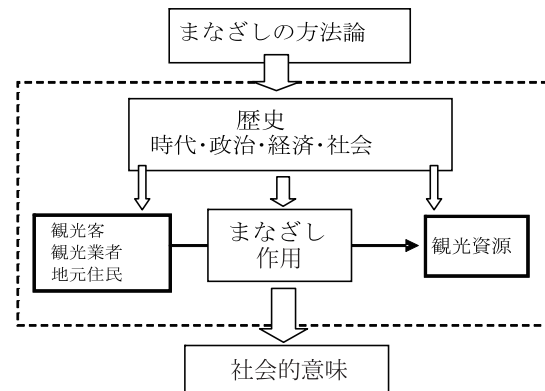


図2 社会科で目指したい観光のまなざし

4 観光のまなざしの社会科教育への援用

観光資源を社会科教育へ援用することに関しては、学習指導要領の完全実施に伴い多くの発表が行なわれている。世界遺産である白川郷や福山の鞆の浦を伝統・文化の活用の観点から授業構想化することの有用性に関しては、既にまとめた(拙稿「社会科教育における伝統・文化を活用した観光産業の授業構想」教育学部研究報告人文科学, 2010)。その際、観光の授業として取り上げた二事例を観光のまなざしという観点から考察を加えていく。

(1)「住民の心も世界遺産」

①「岐阜県における、白川郷の保護」実践の概略

この実践は、新学習指導要領「自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域」を視野に入れた内容である。

を議論する景観問題において開発を差し止めるという判例は無かった。鞆の浦景観裁判では景観保護という判例が下ったことで、全国紙各紙が一面トップ記事として配置した。

実際に指導をするとすると、観光空間に内在する生活者（生活をよりよくしたい）、生活者（観光のために文化を守りたい）、観光者（鞆の浦にあるものを見てみたい）の3者の存在の事実を知り、その上で裁判という観光空間以外から見た他者のまなざしの結果を、さらに自分たちがどういったまなざしでもって評価を下すかという認知の構図の授業構想である。観光空間にとどまらず観光者のまなざしのほかに、裁判の結果という社会的権威が新たなまなざしとして登場する。

裁判の判決をどう解釈し吟味していくかという新たな切込みは、観光資源の在り方とそこで生活する者の在り方をさらに問い返すことになる。言い方を変えれば現代社会の観光の意味を、裁判を通して学習者自身が問い直すことになっている。

(4) 観光のまなざしを学ぶ

地域に残る景観や伝統・文化遺産を、どのように社会科授業で教材化していくかを旨とした取り組みであるということでは共通している。指導要領には保護・活用している人々を取り上げるように記されているが、観光を考える場合、観光者との関係を見無視しては、閉じた観光空間を社会との関係で考えられなくなる。それを打ち破るには、やはり観光者のまなざしを意識する授業が必要である。このまなざしの意味を考えることは、私たちの県にも素敵な観光資源があることに気付くことになると同時に、地域への愛着を育てることになる。また、その考えがあってこそ、観光者と生活者の関係が今のままでよいのかということも考えることもできる。この問題はどの観光地も抱えている。観光産業である以上、観光空間に経済効果が上がらなければならないが、人が集まれば負の側面も発生してくることが多い。時間が許せばそうした意味を考える時間を設定したい。その結果、どのようにその観光資源にかかわろうかという社会参画の態度を育てることにつながるであろう。

社会的意味を考えようとした事例が鞆の浦の

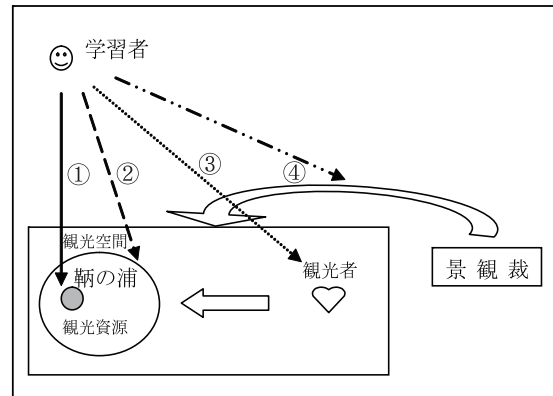


図4 観光（鞆の浦）を見るまなざし

景観裁判の事例である。観光のまなざしがよりよく授業にいかされているが、実際には図に示された4本の矢印以外の裁判結果を検証する新聞記者のまなざしを取り込まれている。授業者は裁判の判決（事実）を吟味するのか、記事（記者のまなざし）の吟味なのかを整理して発問しなければならない。

以下、これまで見てきた観光のまなざしを活用した授業モデルを提案する。

5 授業モデル

(1) 単元について

小・中学校どちらで扱うことも可能な内容である。本稿では中学年の「県内の特色ある地域」の一中単元として扱う。

荻町は2011年12月に景観維持のため、集落内への大型バスの乗り入れ規制のほか、観光客らが利用する集落内唯一の公共駐車場についても、景観の維持や収入悪化を理由に本年度末で廃止されることを決めた。

(2) 単元の目標

県内の自然環境や伝統や文化などに特色のある他地域について、人々が地域のよさを生かしながら特色あるまちづくりに取り組んでいる様子を理解し、地域の特色と人々のくらしとの関係を具体的にとらえるようにする。

(3) 白川郷への観光のまなざし

単元構造図（次ページ参照）

単元構造図（観光のまなざしを活かした特色あるまちづくり）



(4) 単元計画

	主な発問	学習活動	予想される児童の発言：知識内容
1次	<p>1 岐阜県の観光のパフレットをもらってきたけど、岐阜県には、どんなところがありますか。お休みにいったことのある場所を言ってみましょう。</p> <p>2 いろんな岐阜県の地名が出てきたけれど、お休みに行く時、窓から見えた様子で覚えていることを発表しましょう。地図帳やパンフレットを見てみもいいです。</p> <p>3 この記事を読んでください。何がわかりますか。</p> <p>4 グラフを見てください。荻町・白川郷を訪れる人の人数です。このグラフから読み取れることはなんですか。</p>	<p>日本地図</p> <p>提示 T発問する C答える</p> <p>T発問する C答える</p> <p>Cグラフの気付きの確認</p>	<p>・名古屋に行くことがある</p> <p>・昭和村</p> <p>・白川郷に行った。</p> <p>・飛騨高山に行ったことがある。</p> <p>・海がない</p> <p>・山が多い</p> <p>・日本の真ん中にある</p> <p>・観光地が多い</p> <p>・駐車場がなくなる。</p> <p>・白川郷は観光地なのに。</p> <p>・景観って何</p> <p>・200万人も観光に来る人がいる。</p> <p>・下がったところもあるけれど、大体は人数が増えている</p> <p>・2本の線は同じように推移しているけれど、一本はずっと同じぐらいで変わらないまま</p> <p>・少なくとも50万人も来るなんてすごい</p> <p>・なぜ白川郷に来る人が増えているのだろう</p>
<p>なぜ、観光客は白川郷にやってくるのだろう</p>			
	<p>5 白川郷ってどんな所。覚えていますか。</p> <p>6 実は、白川郷に行ってきました。観光協会の人もびっくりするぐらい売れるお土産があるって聞きました。何かわかりますか。</p> <p>7 二つあるけど、一つはこの白川郷の大きなポスターが売れるそうです。もう一つは、このパンフレットも売れるので驚かれていました。どうして買うのだと思いますか。</p>	<p>T発問する C答える Cパンフレットや地図で確認</p> <p>T発問する C答える</p> <p>T発問する C答える</p>	<p>・岐阜県の中では北側</p> <p>・世界遺産になっていると聞いたことがある</p> <p>・岐阜県の一番北側に白川郷って書いてある。富山県や石川県のすぐ横だ。</p> <p>・岐阜市からは遠い。</p> <p>・車で行ったときには高速道路で行った</p> <p>・わらの屋根の変わった家がある。</p> <p>・さるぼぼとかマスコット</p> <p>・クッキーとかのお菓子</p> <p>・お酒</p> <p>・五平もち</p> <p>・何で売れるのだろう</p> <p>・記念かな。</p>
2次	<p>1 白川郷のいろいろなことがわかったけれど、なぜ観光した人がポスターやパンフレットを買うのかわかりましたか。</p>	<p>T発問する C答える</p>	<p>・やはり、行ったという記録。</p> <p>・近所の人への自慢かも。</p>
<p>白川郷を訪れる観光客は、なぜポスターや白川郷の本を買うのだろう</p>			
	<p>2 このポスターを見てどんなことを感じますか。</p> <p>3 秋や春はいいけど、どうして、観光する人たちって寒いのに、行くのでしょうか。</p>	<p>資料提示 T発問する C答える</p> <p>T発問する C答える</p>	<p>・世界遺産に行ったことの自慢だと思う。</p> <p>・四季がきれいだなと思う。</p> <p>・全部見てみたい。</p> <p>・冬は寒そう</p> <p>・本物が見たい。</p> <p>・寒くてもこんなに雪が積もった合掌造りがあるのはいい。</p>

<p>2次</p>	<p>4 ポスターから白川郷の本物のイメージが自然にわいてくるってことですか。</p> <p>5 世界遺産だからではなく、本物のイメージを話しているね。 白川郷って合掌づくりだけではなく、周りの景色も、移り変わる時間も、その周辺の様子も、本やポスターや世界遺産って言葉や写真のイメージも観光する人はいろいろな期待をしているってことだね。</p> <p>6 2枚の合掌造りをとった写真があります。みんなはどちらの風景が白川郷らしいと思いますか。理由をつけてまとめましょう。(車のある・ない写真)</p> <p>7 とても難しいですね。 でも、観光地は風景だけではないということもわかりました。 萩町人は、観光を守りながら暮らしているのは、もう一度誰のためか一人ひとり考えてみましょう。</p>	<p>T発問する C答える</p> <p>C説明を聞く</p> <p>T発問する C答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実物を見て、ポスターを見るから余計にいろいろなことを考えると思う。 ・合掌造りの所にある水田が、こんな色になったら村全部はどうなるかと考える。 ・世界遺産もだけど、実際にその自然とかがすごくきれい。 ・白川郷に行く人は、白川郷に行きたいからどこでもいいことはない。 ・世界遺産もそういう白川郷のことを認めたのだろう。 ・旅のテレビや本の写真を見て、みんなが行きたい白川郷は、こんなところだと教えるため。 ・旅の思い出に浸れる。 ・白川郷は普段とは違うものがある ・だから持ち帰りたいのだと思う。 ・岐阜県にこんなきれいなところがあると思うと行きたい。 ・何回もいけないから、違う季節の様子を見て楽しんでいる。 ・そこで生活している人がいるから車があっても当たり前だけど、白川郷は観光地だから車はない方がいい。 ・そこで暮らす人がいる方がいいと思う。民宿をしても、だれかの家で、誰も暮らしていないはずないから。生活感がある。わざとなくすのもどうか
<p>3次</p>	<p>1 観光客が行ってみたいくなる白川郷ってどんなところか調べてみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>なぜ世界遺産に登録されることになったのだろう</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①なぜ合掌造りなのか（自然と歴史） ②昔からの風習が残ったのはどうしてか（結の心と遮断された交通） ③どうして世界遺産に登録されたのか（自然環境と合掌造りの町並み）</p> </div> <p>2 観光客の人は、世界遺産だから見たいのかな。岐阜県の藁葺きの家だと、どうでも良かったのかな。</p> <p>3 世界遺産になったら、観光客としては見たいようです。世界遺産に登録されて良いことばかりですね。</p>	<p>資料を基に調べる</p> <p>白川郷の概要を記している資料副読本の記述</p> <p>T発問する C答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冬にライトアップを見に行った時は、すごく寒くて雪が積もっていた。でも、きれいだった。 ・雪の量は、岐阜市とはぜんぜん違う。 ・わらの屋根で出来た家がたくさんあった。 ・そこは泊まれる。 ・観光客もたくさんいた。 ・きっと家の作りが違うから、そういったものを見に行っているのだろう。 ・世界遺産だと聞いたことがある。 ・他の家と違うから世界遺産登録をされた。昔のままだから良かった。 ・便利が悪かったことが良かった。 ・山に囲まれて、他から閉ざされることになったので、豊かな自然が残ってよかった。 ・世界遺産だからみたいとおもう。だから、他の地域では昔の家がなくなったと思う。 ・世界遺産でなくても、合掌造りの家はそんなにないので、みんな今ほどではないけれど観に来たと思う。 ・世界遺産に登録された理由は、自然環境と合掌造りの町並みが理由だけど、一年に何百万人も来るとどうだろうか。
<p>4次</p>	<p>1 萩町の人たちについて考えてみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>萩町人は、観光客の人に来てほしいのかな。</p> </div> <p>2 萩町は観光客が増えて、最初の新聞にもあつ</p>		

	<p>たけれど、駐車場がないので、田をつぶして駐車場にした所もあったようです。グラフにあったように観光客が増えて、いろいろ整備もされたようです。それが、駐車場をなくするのは何故なのでしょう。 地元の人は、何に困るのだろうか。</p> <p>3 観光客の人たちは何がみたいのかな。世界遺産を見たいけれど自分たちが押し寄せて行けば、世界遺産の指定を受けた時とは様子が変わってしまう。それって、世界遺産が本当に見たいのかな。 観光客は行かないほうがいいのか。</p> <p>4 観光者は、ずっと増えています。すごく環境が悪くなるのなら、みんなが言うように、こないでと言うはずだけど、そうになっていないですね。 どんな秘密があるのだろうか。町の人は困っていないっていいのだろうか。</p> <p>5 白川郷だけを見ているから白川郷に集中して人数が増えたようだけど、他の要因はないだろうか。 道が良くなったことで、高山や岐阜や東京や石川県の金沢あたりからも来ています。定期バスも増えています。観光地にいろいろ行けるようです。</p> <p>6 観光協会の人からお話を聞いて分かったことをまとめてみましょう。</p> <p>◎昔から続いた大事なものを、将来を考えた観光の在り方を考え、今の観光客の皆さんに要求してもいい時期なのかもしれません。逆に、観光する人もダメになった観光資源はもとにもどせないと感じながら観光をしてほしいです。そこで初めて周囲の自然といっしょになったものが見られるはずですよ。</p>	<p>C説明を聞く C地図を見ながら。</p> <p>T発問する C答える</p> <p>Cゲストティーチャーの話をもとに分かったことをまとめる</p> <p>T発問する C答える</p>	<p>もっと来てほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> • もっと来てくれれば、観光収入で生活している人は助かると思っている • 宿泊客が多くなったり少なくなったりすると宿の人は困る。 • 萩町の人はほとんど観光産業で働いている。 • 自分たちも道路や高速道路が出来れば便利になる。 • 土日だけが高速代が安いから人が多いので、土日だけ我慢する。 • 世界遺産も取り消されるかも。 • みんな車で行くから駐車場が要るんだから、バスや電車で行けばいい。 • 集中して見られなかったりすると文句が出るから、逆に他の日に来た人にサービスをする。 • 土日に来ないでいい人は、高速道路のお金は関係ないから、普通の日にバスで来るのではないか。 • 平日にも人がたくさん来るようにイベントをやるなど工夫することで、観光客が来くなるようにしている。 • 世界中の人が来るんだから誇りに思いたい • 通のバスだと、駐車場が要らないし、安いし、時間が決まっているから混まない。見た人はまた決まった時間に帰る。 <p>これ以上は困る</p> <ul style="list-style-type: none"> • あまり来られても、自分たちの生活がいつも見られているようでいやだと思う。 • 観光する人が多いと、ゴミや交通などの問題が起きるだろう。 • 地域の人は生活が悪くなるのはいやな人もあると思う。 • あまり便利になって、他の町と変わらなくなってしまえば世界遺産の町の意味はなくなる。 • 地元の人も田も減ったし、観光客が来ないと食べていけない。 • その土地の人のことを考えてないのはいけない。 • 行く人数を制限する。 • この10年間で、だいたい70万人人ぐらい増えているから限界なのでは。 • 土日に集中してこられるのも大変だ。 • 普通の日にバスで来れば地元の人も忙しくなくて、来る人も増えるんだ。 • 今はよくても、将来ボロボロになっていたら、観光する人がいなくなる。
<p>5次</p>	<p>1 白川郷のポスターを通じて、風景がきれいだとか、味わえない季節を感じたいという話が話題になりました。 白川郷の近くの高山でも、写真を使って地域を紹介している人がいました。どんなことをしていると思いますか。</p> <p>2 タクシーで、お客さんにスライドを見せて、目的地に着くまでの間、写真についていろんなことをお客さんと話をしているそうです。小鳥さんのスライドを借りてきました。どんなことを話してみたいですか。</p> <p>3 観光客の人はパンフレットの写真やいろんな</p>	<p>T発問する C答える</p> <p>T発問する C答える</p> <p>T発問する</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ポスターを観光座主で売る。 • インターネットで紹介する。 • 駅に貼る <ul style="list-style-type: none"> • やっぱ、行っていない季節の写真はすごくきれいに感じるだろう。 • 秋の写真を見ながら、春や夏にそこに行くのが緑がきれいかもしれない。 • 動物がいるのを見て、かわいいと言いついそうになった。 • 素敵な地域の紹介の仕方だと思う。 • パンフレットにある高山や下呂や黒部にいけ

<p>情報で、観光したいところを決めるようですね。 岐阜県の中には、他にもいろいろ ところがあります。岐阜県で自分が観光に行ってみたくなくなったところがありますか。パンフレットを見て選び、地図や写真と共に理由を書いてみましょう。</p>	<p>C表現物を小グループで発表し合う</p>	<p>るのもいいのかも。 ・自分で、ここの風景はこうだと思い込んでみるみたい。 ・高山はお祭りがあるようだ。 ・恵那峡は行ったことがないし、自然がすごそう。 ・養老鉄道が通っているから〇〇にいてみたい。</p>
--	-------------------------	---

6 おわりに

「観光は産業である」と言われる。「観光資源」という言葉もある。3.11の東北の震災により、壊滅的な被害が出たが、その中で復興への希望となったのはボランティアをはじめとする人のつながりと観光地の復活のニュースである。日本三景の一つである松島を訪れる観光客の報道は、多くの人がかつ共通情報をもとにした震災復興という報道のねらいであろう。また、東北のみの高速無料化なども実施された。これも観光がいかに産業として存在意義があるかを表している。観光は周辺産業や地元の人への活力として大なる影響を与える。こうした経済的側面から授業へ切り込んだり、内容を拡大したりすることも考えられる。しかし、資源であるなら他の産業と同じように、消費する観光者と生み出す地元業者（住民）の関係はどのように扱えばよいのかということを考えて。産業としての観光を、社会科授業でどう扱えばよいのかと感じたのが本研究へのきっかけだった。

そこで観光の概念にまなざしの活用を考えた。フーコーは、社会にある知=情報と情報の蓄積=権力と捉えていた。まなざしを送るものの方が権力を内在し、情報により力を与えている。これは、ベンサムが設計したパノプティコンという一望監視塔のようなものであると一般に言われる。観光の場合も、まなざしはその観光資源に向けられ、観光空間の様々な記号を消費していると捉えられる。観光者も、テレビ番組や駅のポスターやツアー本も消費できるという想定イメージを作り上げる。ある種のまなざしを送るわけである。その空間で生活をするものは、期待される観光地であり続けるために、観光者の期待に沿うように観光空間や観光資源を維持しようとして観光産業を立ち上げる。

しかし、社会の変化により、観光空間内の生活者同士で意見が分かれることになる。また、

観光のまなざしに従ったがために観光地そのものの観光資源が破たんすることもある。観光者にとって、非日常でなくなった観光地は魅力がなくなる。テーマパークが最初だけ観光地として賑わうのはこのためである。ここで社会のシステムがある種ほころびを見せ始める。

これまでのイメージを守り、非日常化を死守しようとする更新作業へ予算をかけようとするが、システムが変化すれば予算のかけるところを間違えれば、資源はあつという間に消費され尽くされる。

白川郷の駐車場撤去は、観光者が減ったとしても、駐車場のある景観は要らないという資源そのものへの投資である。安易な観光客はいらぬという住民から産業へのつき返しである。しかし、そうした社会システムへ移譲した中では、行動に移した観光地こそが本物の観光地であるとして価値が生まれると予想される。その時、人はその新たな価値を求めて、たとえ不便であっても、再び白川郷を訪れたいくなる。

こういったことを授業で扱えば、観光のまなざしにより観光空間やそこに暮らす人、時間など観光資源は様々な社会的な意味を見せることになる。今後、地域の資源の保護をしていく努力や工夫に関して、多くの授業がなされるだろう。その時、観光空間の変容の中でまなざしにさらされながら、様々な立場の人々がなにを考へ、社会の情勢に合うような生き方をしようとしているのかという観点が抜けないようにすると、よりよい社会認識形成が図られるであろう。

資料 1

白川郷、公共駐車場を廃止へ 合掌集落内の景観維持 2011.12.19 岐阜新聞

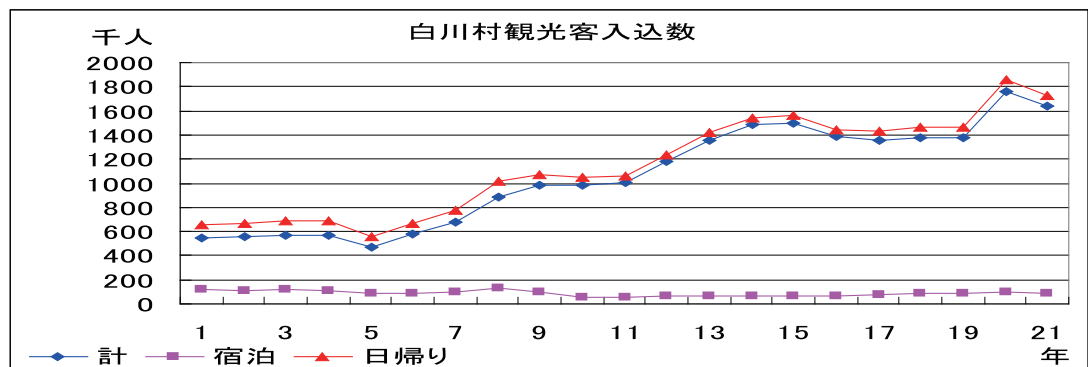
国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界文化遺産に登録されている大野郡白川村の合掌造り集落で、観光客らが利用する集落内唯一の公共駐車場（約30台収容）が、景観の維持や収入悪化を理由に本年度末で廃止されることが19日、村から委託を受け運営する荻町地区への取材で分かった。

同地区は今後、観光客らに、集落外の公共駐車場を利用し徒歩で集落に入るよう呼び掛ける。同村では今年秋になって一部住民が私有地を無許可で民間駐車場にする問題が表面化し、住民の間で集落内の駐車場の在り方について協議。

18日に開かれた地区総会で「駐車場が景観を悪化させている」として廃止を決定した。

同村は景観維持のため、集落内への大型バスの乗り入れ規制を既に始めている。その結果、公共駐車場を利用するバスの減少で収入が悪化したことも廃止を後押しした。

資料 2



【参考文献・引用文献】

- ・川島雄一郎「第4回観光関係人材育成のための産学官連携検討会資料」, 観光庁, 2009
- ・ミッシェル・フーコー『臨床医学の誕生』みすず書房, 1969
- ・桜井哲人『フーコー 知と権力』講談社, 2003
- ・ジョン・アーリ『観光のまなざし』法政大学出版局, 1995
- ・須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版, 2008
- ・山上徹『観光立国へのアプローチ』成山堂書店, 2010
- ・佐々木一成『観光進行と魅力あるまちづくり』, 学芸出版社, 2008
- ・草津英律「ジョン・アーリの現代主体論:主体と資本主義社会の関係」『国際広報メディアジャーナル 4』2006
- ・<http://jairo.co.jp/words/cont/4c.html>
- ・<http://www.marketingpower.com/Pages/default.aspx>
- ・岐阜私立長良小学校『研究要録』2009
- ・ジョセフ・S・ナイ『不滅のアメリカ』, 読売新聞社, 2004
- ・ミシュラン仏語ガイド「ボワイヤジェ・プラティック・ジャポン」国土交通省まとめ, 2007
- ・向山洋一「観光立国学習は、次の手順で！」『教室ツーウェイ』No.375, 明治図書, 2009
- ・小原友行「NIEを取り入れた社会科の授業改善」全国社会科教育学会第58回提案資料,2009
- ・岐阜大学風土保全教育プログラム編『森の国の風土論』地域自然科学研究所, 2010
- ・谷口知司「観光地“白川村”の発展過程と観光の果たす役割」岐阜女子大学紀要第36号, 2007
- ・安村克己「観光の理論的探求をめぐる観光まなざし論の意義と限界」遠藤英樹,堀野正人編『「観光まなざし」の転回』春風社, 2004

1 安村克己「観光の理論的探求をめぐる観光まなざし論の意義と限界」遠藤英樹, 堀野正人編『「観光まなざし」の転回』春風社, 2004

2 檜山平「観光のまなざしとアフォーダンスー宮崎県における観光に関する理論社会学的研究」『宮崎県における地域社会の研究』宮崎大学教育文化学部「みやざき学」共同研究チーム, 2006